

経営情報学会関西支部研究会の開催報告

関西支部長 宗平順己（むねひら としみ）
（株）ロックオン

去る2月7日（土）経営情報学会関西支部研究会を開催しました。場所は大阪の「ウメキタ」グランフロント大阪北館7Fナレッジキャピタルの一面にあるナレッジサロンのセミナールームGで、時間は15時30分～17時30分でした。

今回の報告は以下の2点でした。

テーマ1：「企業システムの新しいインテグレーションの姿」

講師：株式会社オーグス総研 サービス事業本部
クラウドインテグレーションサービス部長
大場克哉氏

内容：2000年代前半からSOA (Service-Oriented Architecture) やクラウド技術について技術開発を推進し、現在その事業化に取り組んでいる大場氏に、以下の内容で、企業システムの最新動向について語っていただきました。

- ・2000年代のSOA：当時なぜ広がらなかったのか、現状は？
- ・クラウドの台頭：企業システムへのインパクト
- ・新しいインテグレーションの姿
- ・社外との連携のためのWebAPI (Application Programming Interface)
- ・API活用の事例と課題

海外では一般に取り組まれているSOAが日本ではなぜバズワードになったのかという疑問に関して、企業のIT化ステージングにおいて日本はステージ2、すなわちコスト削減が目的であったのに対し、欧米はステージ3、4すなわち新たな付加価値向上のためにSOAを取り入れたのではないのかという指摘は確かに納得できるものがありました。

また、SOAが主に社内でのサービスの再利用を目的としていたのに対し、最近の動きとしてWebAPIによる公開というスタイルが急速に拡大しているという紹介があり、特にWalgreensの事例—プリントサービスのAPIを公開したことで、利用者が面白いアプリを公開し、結果収入増につながった

というもの—が興味深く、これからのインテグレーションの新しい姿が見えてきたように思えました。また、SOAもWebAPIもコンセプトは同じで、技術が進んでSOAをより使いやすい形で再現したのがWebAPIであるという解説も非常に参考になりました。

テーマ2：「サービスデザインとアジャイル開発—実践からのフィードバック」

講師：関西支部長 宗平順己（株式会社ロックオン
特別顧問商流プラットフォーム事業本部長）

内容：研究会の案内メールでの内容は以下のものでした。

「ECシステムはコンシューマ向けのシステムであるがゆえに、UI (User Interface) には強い関心が向けられてきた。しかしながら、ECはビジネスであり、使い勝手だけでは事業を成功させることはできないことから、ビジネス全体を設計するサービスデザインの手法を適用することが求められる。

ところでサービスデザインを適用して事業をデザインし、それを支えるシステムを構築する際は、往々にして未知の領域にチャレンジすることとなり、試行錯誤を繰り返すこととなる。このため、システム開発は必然的にアジャイル開発を適用せざるを得なくなる。

本発表では、このような背景から、ある製造業がECに取り組むにあたって適用したサービスデザインとアジャイル開発の概要を紹介するとともに、そこから得られた知見について報告する。」

発表では、業務システムと比較した場合のECシステムの特異性を成熟度モデルとともに紹介し、ガートナーのペースレイヤーモデルと対比させることで、革新、差別化、記録、3つのレイヤの特徴をECシステムが内蔵することを示しました。ECのフロント系が差別化システムなのですが、その差別化のためにはUXのみの小手先の工夫では限界があり、サービスデザインを適用してサービス全体を顧

客基点で設計するところから始めないといけないことを示しました。

そしてその具体的な適用事例として、印刷袋のオーダーサイト「みんなのパッケージ (<https://www.minpake.com/>)」を紹介しました。

さらにサービスデザインを適用した要件定義、1カ月でチケット駆動で開発した実装フェーズにつ

いて紹介し、アジャイル開発との親和性と課題を提示しました。

参加者は合計15名(当日欠席3名)でITコーディネータ京都からも3名参加し、産学連携の幅広い集まりとなりました。

講演会終了後は場所を6Fウメキタフロアに移り、さらに深い議論を進めることができました。